

【土_資料307】新潟県における主な土砂災害の歴史

1. 新潟県の地形・自然等の特色と土砂災害

■山地から日本海まで、起伏に富んだ地形が生み出す豊かな自然

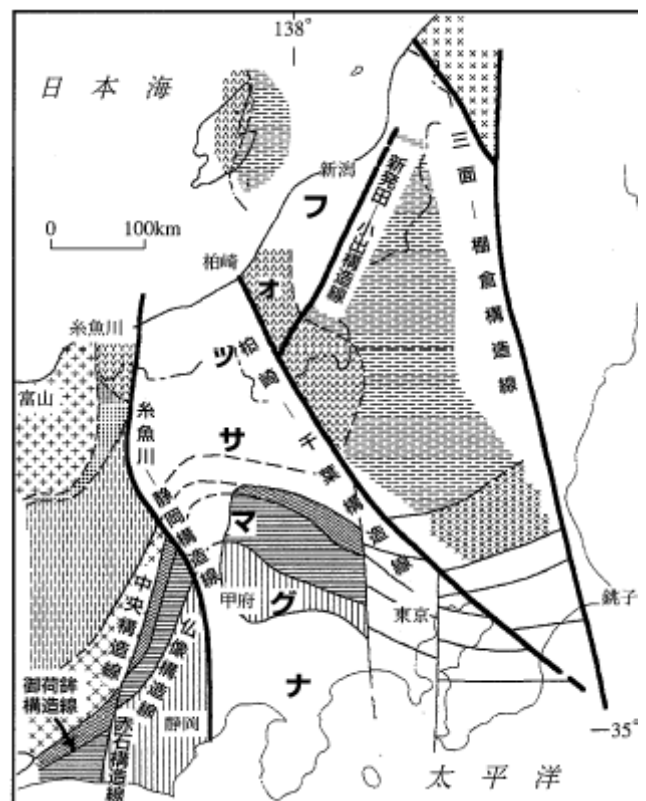
- ・新潟県は、東から南に3,000メートル級の険しい山地(日本アルプス)を持ち、北から西には日本海が広がっている。
- ・山地から海岸線までのおよそ150キロメートルの間に、山、丘、平野、海、そして島という、多様で変化に富んだ自然と景観が形成されている。
- ・例えば山間部には手つかずの山や森、そして棚田に代表される里山の風景がある。丘や平野部には、日本の穀倉地帯と呼ばれる田畑の実りの風景、そして近代的な町並みが広がり、海岸線には美しい海と海に沈む日本海の夕日を望むことができる。
- ・また多様な自然の中で、それぞれの地形や自然に応じた多彩な生活が営まれ、個性と魅力ある地域の文化を育んできた。
- ・こうした起伏に富んだ地形が生み出す豊かな自然と暮らしの風景は、他県にもまして、新潟県の大きな魅力であり、財産となっている。

【新潟県の基礎データ】

- | |
|---|
| ・総面積 12,583.83km ² (全国第5位) |
| ・海岸線の長さ 634.4km (越後 330.7km、佐渡 280.6km、粟島 23.1km) |

■新潟の地形・地質がもたらす土砂災害の危険性と多様で魅力ある風景



- ・新潟県は、東日本と西日本の地質上の境界とされる“フォッサマグナ（大地溝帯）”をまたぐ位置にあり、1) 糸魚川ー静岡構造線 2) 柏崎ー千葉構造線 3) 新発田ー小出構造線という3つの大きな地質構造線（断層帯）が走っている。
- ・新潟県の県境付近の山地は、急峻で谷が深く、堆積岩（砂岩や泥岩等の軟岩）等で構成される脆弱な地質のために、斜面崩壊や土石流が起こりやすいとされている。
- ・特に中越・上越の山地や丘陵地は泥岩を主体とする地質のために、国内有数の地すべり多発地帯となっている。
- ・平野部は地盤が軟弱（未固結）で、砂が多く含まれているところが多い。そのため地震時の揺れが大きく感じたり、液状化が発生しやすい。また沿岸部の砂丘地帯周辺では、低湿地のために地盤沈下が発生しやすいとされている。
- ・こうした脆弱な地形・地質は、地震や雨による土砂災害の危険性をはらんでいるが、一方で独自の景観や趣に富む風景を形成していることが多い。糸魚川ジオパークには、フォッサマグナが生み出す景観を訪ねて世界中から集まってくるなど、新潟県にとって大きな資源となっており、また教育や観光に活用する動きも広がっている。



2.新潟県における主な土砂災害の歴史

年代		土砂災害の歴史
江戸		<ul style="list-style-type: none"> ・焼山の噴火(1773年:安永2年) →マグマが噴出した最新の噴火
明治		
大正		
昭和	1960 1970	<ul style="list-style-type: none"> ・松之山地すべり(1962年11月4日) →旧松之山町(現十日町市)で発生。倒壊家屋371戸 ・小泊地すべり(1963年3月16日) →旧能生町(現糸魚川市)小泊地区で発生。倒壊破損、家屋31戸、死者2人 ・水沢新田地すべり(1969年4月26日) →旧広神村(現魚沼市)で発生。埋没倒壊10戸、死者7人 ・焼山の水蒸気爆発(1974年7月28日) →爆発に伴う火山弾が登山中の学生3人を直撃・死亡 ・妙高高原地すべり(1978年5月18日) →赤倉山の地すべり土石流で、旧妙高高原町(現妙高市)で倒壊破損家屋24戸、死者13人
昭和	1980 1990	<ul style="list-style-type: none"> ・濁沢地すべり(1980年12月30日) →長岡市濁沢地内で発生。倒壊破損家屋12戸 ・蓬平地すべり(1984年5月17日) →長岡市蓬平地区で発生 ・玉ノ木地すべり(1985年2月15日) →旧青海町(現糸魚川市)で発生。倒壊破損家屋7戸、死者10人 ・梅雨前線豪雨による土砂災害の発生(1995年7月11日) →上越地方を中心に土砂災害が発生。 ・梅雨前線豪雨による土砂災害の発生(1998年8月4日) →佐渡・下越地方を中心に土砂災害が発生。
平成	2000 2010	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨前線豪雨による土砂災害の発生(2004年7月13日) →中越地方を中心に土砂災害が発生。 ・中越地震に伴う土砂災害の発生(2004年10月23日) →山間部でのがけ崩れ、地すべり等(河道閉塞も発生) ・中越沖地震に伴う土砂災害の発生(2007年7月16日) →がけ崩れ、地すべり等 ・前線豪雨による土砂災害の発生(2011年7月27日～30日) →中越地方を中心に土砂災害が発生。 ・国川地すべり(2012年3月7日) →上越市板倉区国川地区で発生

3.大規模な土砂災害の概要

災害名	概要							
<p>松之山地すべり (1962年11月)</p> <p>(発生地) 松之山町(現十日町市松之山区)</p>	<ul style="list-style-type: none">・雪解け期の4月に亀裂(前触れ)がみられ、秋の長雨で活動が活発化し、11月に発生・その後も地すべりは続き、1964年頃に停止・新潟県は災害救助法を適用した <p>(規模) 延長3,600m、幅2,400m、面積850ha</p> <p>(被害) 人家371戸、学校4棟、県道5,400m、水田349.9haなど</p>	 <p>提供:新潟県土木部砂防課</p>						
<p>中越地震に伴う土砂災害 (2004年10月)</p> <p>(発生地) 中越地方全域 (長岡市、小千谷市、十日町市、旧川口町、旧山古志村 等)</p>	<ul style="list-style-type: none">・山間部等全域で土砂崩れや地滑りが発生・各地で家屋や田畑が崩れ、道路は寸断された・山古志では崩れた土砂で河道閉塞が発生・7月の平成16年7月新潟・福島豪雨や秋の台風の前で地盤が緩んでおり被害を拡大・地すべり地区では立ち入りが制限された <p>(土砂災害の発生状況)</p> <table><tr><td>土石流：4件</td><td></td></tr><tr><td>地すべり：131件</td><td></td></tr><tr><td>がけ崩れ：90件</td><td>(計 225件)</td></tr></table>	土石流：4件		地すべり：131件		がけ崩れ：90件	(計 225件)	 <p>提供:新潟県</p>
土石流：4件								
地すべり：131件								
がけ崩れ：90件	(計 225件)							